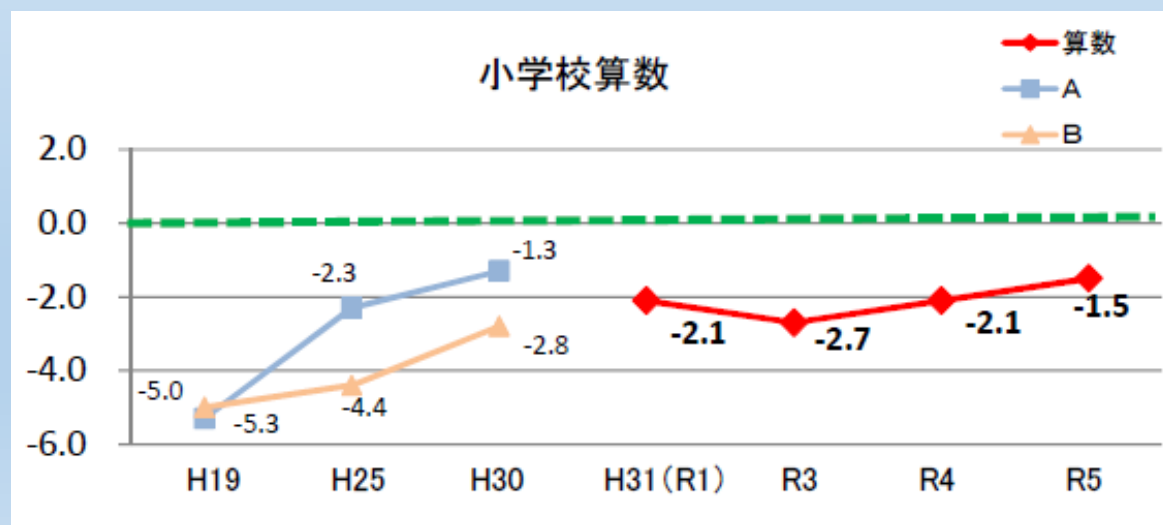
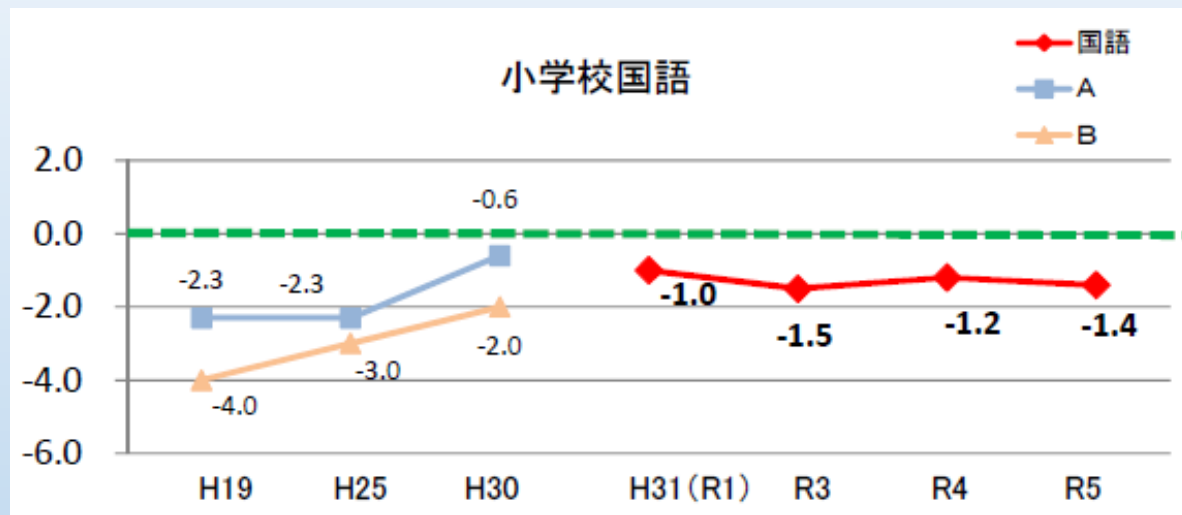


# 本道教育の現状

# 北海道の学力の現状 ～小学校 国語・算数

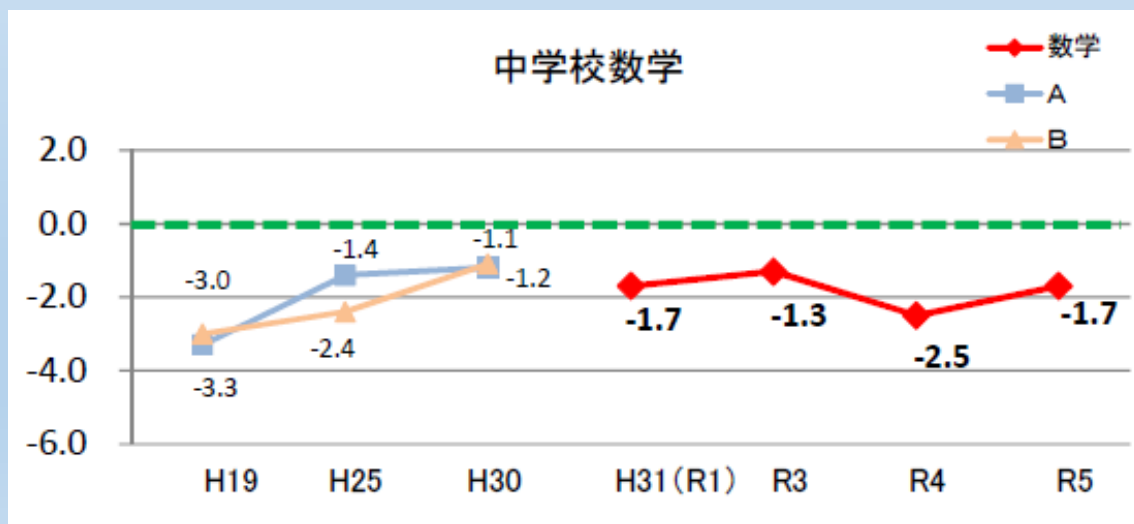
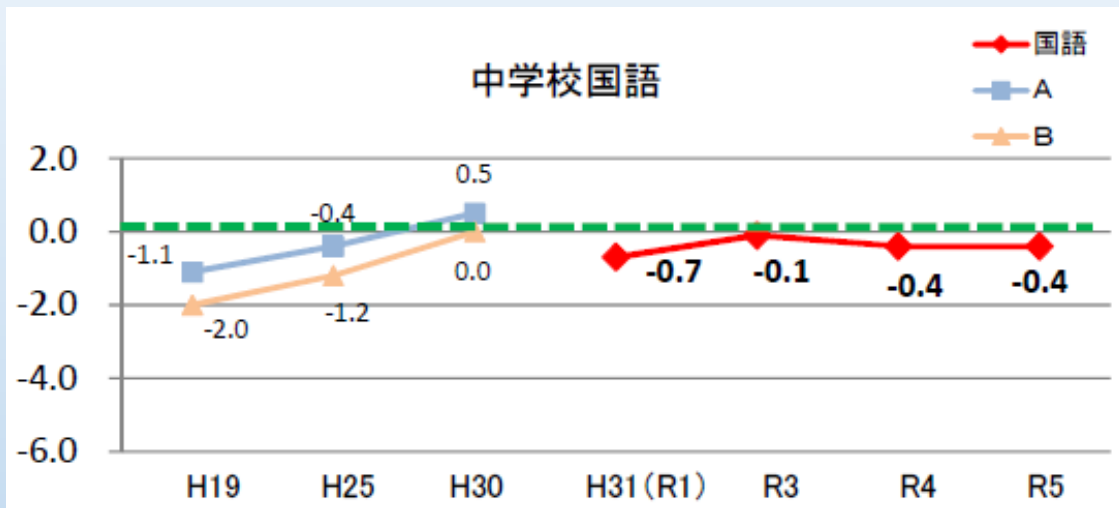
全国と北海道の平均正答率の差



※数値は、「北海道(公立)の平均正答率－全国(公立)の平均正答率の差で算出 令和5年度全国学力・学習状況調査北海道版結果報告書

# 北海道の学力の現状 ～中学校 国語・算数

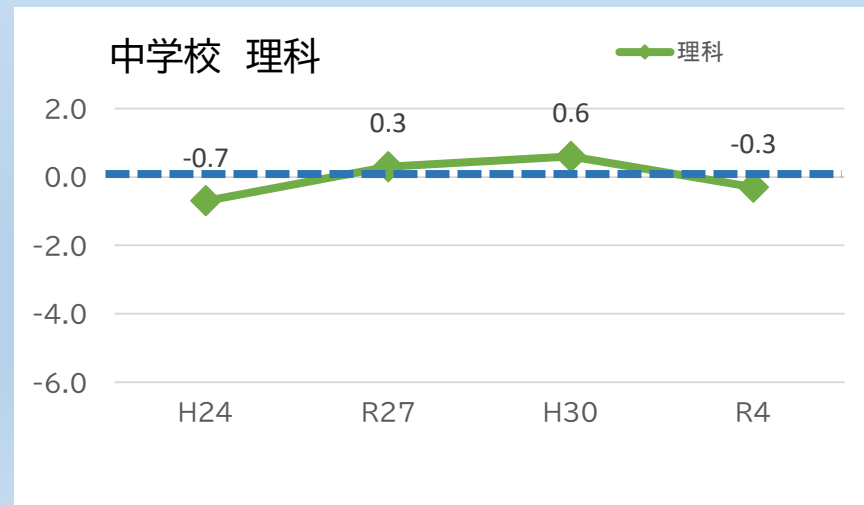
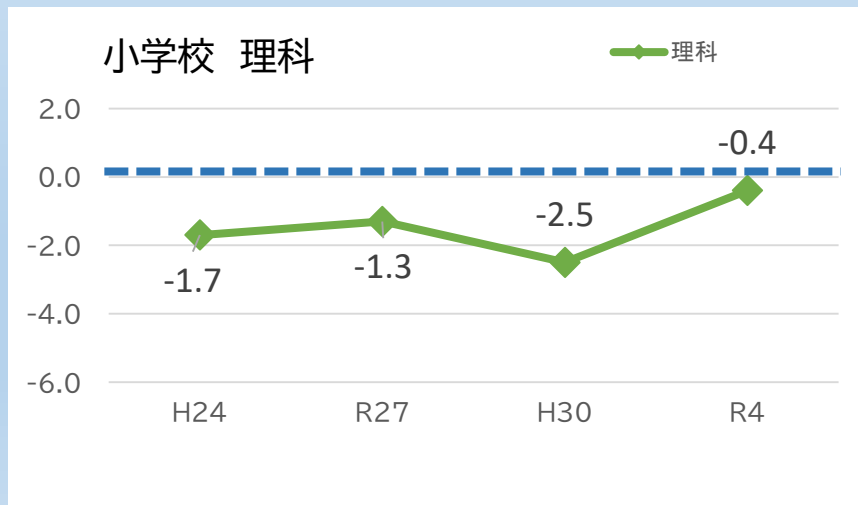
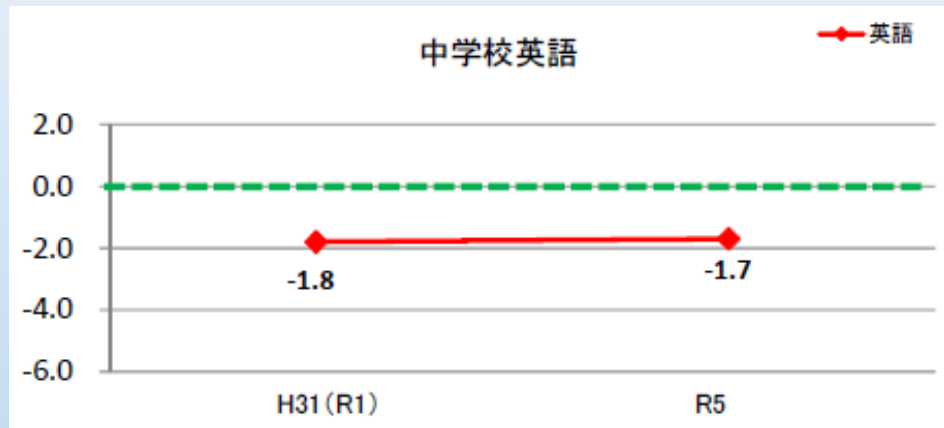
全国と北海道の平均正答率の差



# 北海道の学力の現状

## ～小学校・中学校 理科、中学校英語

### 全国と北海道の平均正答率の差



# ＜改善が見られた各学校の取組＞

## 検証改善サイクルの確立にむけた取組

「**目的共有**」と「**対話協働**」による学校のチーム力の強化

- 検証改善サイクルの実質化・迅速化
- 校務分掌間の連携体制の強化
- 改善に向けた取組を学校全体で統一

### 検証改善サイクルの実質化・迅速化

| 豊かな心の育成     |   | 全国学力・学習状況調査の活用   |  |   |
|-------------|---|--|--|---|
| 心を見つめる機会の確保 |   | 職員会議で実際に問題を解いてみる☐どこが身についていないのかを共有  |  |   |
| 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全学年で道徳の授業を公開し、教科となった道徳を踏まえて実践を重ねる</li> <li>○ 「学校ボランティア感謝の集い」の年2回実施</li> <li>○ 「自分にはよいところがある」とする児童を77.4% (R1調査) から95%以上に</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと認識している児童88.1% (R1調査)を90%以上に</li> <li>○ 不登校傾向児童の減少</li> <li>○ 閑居行動発生時の複数対応の徹底</li> <li>○ 学校ホームページの毎日更新 (年間更新回数約250回)</li> </ul> | <p>4月</p> <p>調査の実施<br/>自校採点・分析<br/>全職員で共有<br/>自校採点結果を<br/>自校採点共有</p> | <p>5・6月</p> <p>解き直し1回目<br/>夏休みの学習に活かす<br/>個々の伸びしるを把握<br/>する</p> |
|             |   |  | <p>7月</p> <p>調査結果が届く<br/>分析</p>                                      | <p>8月</p> <p>分析結果を<br/>全職員で共有</p>                               |
|             |   |  | <p>9月</p> <p>解き直し2回目<br/>(再テスト)<br/>個人案を配布<br/>児童の伸びしるを保護者に伝える</p>   |   |

- ・ 数値目標の達成状況から学校改善プランを年2回見直し
- ・ 学力調査を活用した検証改善のスケジュールを全教職員で共有

## <改善が見られた各学校の取組>

### 検証改善サイクルの確立にむけた取組

### 教員の主体的な取組を促す組織体制の工夫

- 全教職員で自校の成果や課題、改善方策を協議
- 全教職員で生徒の目指す姿のイメージを共有
- 教員一人一人の特性を生かして教育活動を推進

### 全教職員で生徒の目指す姿のイメージを共有

**研究主題**  
「主体性を持って  
自ら学習に向かう  
生徒の育成」

**目指す姿のイメージがバラバラ?  
主体性を持って学習に向かう姿を共有**

標中の先生方が望む**主体的な姿**  
得られた成果をアウトプットしてみよう

何が**できた?** 次の学びへ・実生活へ自分の人生へどうつなげる?

**失敗OK!** **やってみよう!**  
挑戦 ねばり強く あきらめずやり切る

**なぜ?** **どうして?**

目的やねらいは何? 興味関心・疑問を持つ

- ・ 全教職員での協議により、生徒の目指す姿を具体化し、イメージを共有
- ・ 生徒の目指す姿を教室に掲示し、生徒と共有

## <改善が見られた各学校の取組>

授業改善 主体的・対話的で深い学びの実現

個に応じた学習指導の充実

- 事前の教材研究で生徒のつまずきを具体的に分析
- 生徒の問いや気付きを生かして指導を工夫

### 生徒の問いや気付きを生かして指導を工夫

6/4④ 1次式のいろいろ計算について考えよう。

問 次の計算は正しいか。  
$$(-6) \times \frac{2x+1}{3}$$
$$= (-2) \times 2x+1$$
$$= -4x+1$$
  
正しい 5  
正しくない 20  
わからない 3

課 1次式の計算で注意すべき点は何か。  
〈乗法分配法則に直す〉 
$$(-6) \times \frac{2x+1}{3}$$
$$= (-6) \times \frac{1}{3} \times (2x+1)$$
$$= (-2) \times (2x+1)$$
  
〈先に約分〉 
$$(-6) \times \frac{2x+1}{3}$$
 分子は1の倍数  
$$= (-2) \times (2x+1)$$
  
分配法則 
$$= -4x-2$$
 符号に注意  
④ 
$$(-6) \times \frac{2x+1}{3}$$
 の計算は、  
①約分→②分配法則の順で計算する。  
分配法則を利用した計算は特に注意する。

- ・分析した生徒のつまずきを参考に、生徒の問いや気付きを引き出すことができる問題を提示
- ・生徒が主体的・対話的で深い学びを通してつまずきを解消できるよう、自ら既習を振り返って考える場面や他者と考えを伝え合う場面を設定
- ・形成的評価を繰り返して新たに把握したつまずきを意図的に取り上げ、学級全体で再考するなど、生徒の状況に応じて指導を工夫

## <改善が見られた各学校の取組>

授業改善 主体的・対話的で深い学びの実現

**ICTを活用**した学習活動の充実

- ICTの活用による主体的・対話的で深い学びのイメージを共有
- 教員間によるICTの効果的な活用に向けた協働的な学び

### ICTを活用した主体的・対話的で深い学びのイメージを共有



【一斉学習】



【個別学習】



【協働学習】



## <改善が見られた各学校の取組>

小学校と中学校の連携した取組の充実

効果的な**乗り入れ指導**（相互乗り入れ）

- 小学校と中学校の連携を推進する体制の整備
- 算数・数学科における相互乗り入れ 指導の実施
- 相互乗り入れ指導による系統性の把握と指導の工夫・改善

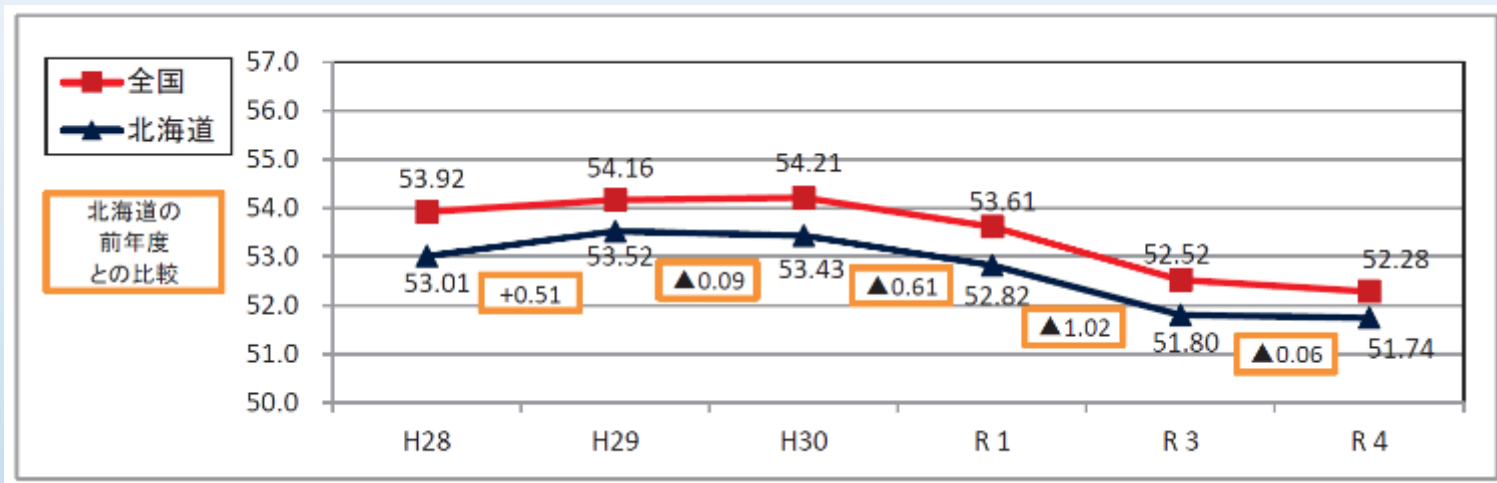
### 算数・数学科における相互乗り入れ指導の実施



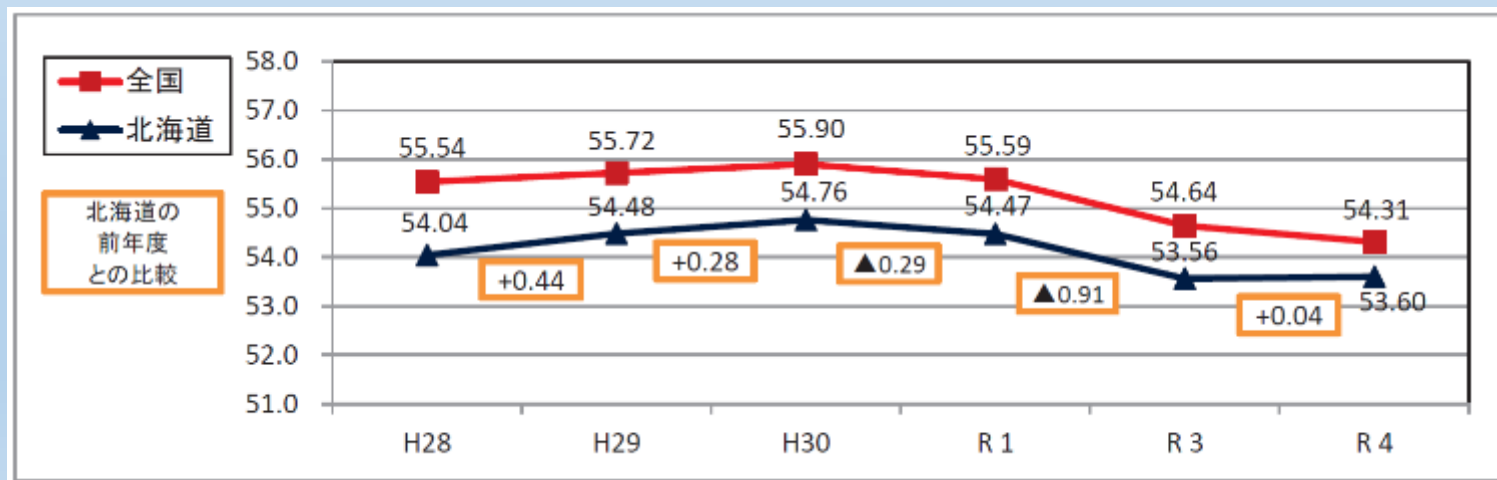
- ・ 中学校教員による小学校への乗り入れ指導
- ・ 中学校数学科における小学校教員（T2）とのチーム・ティーチング

# 北海道の体力の現状

## 小学校男子 体力合計点の推移

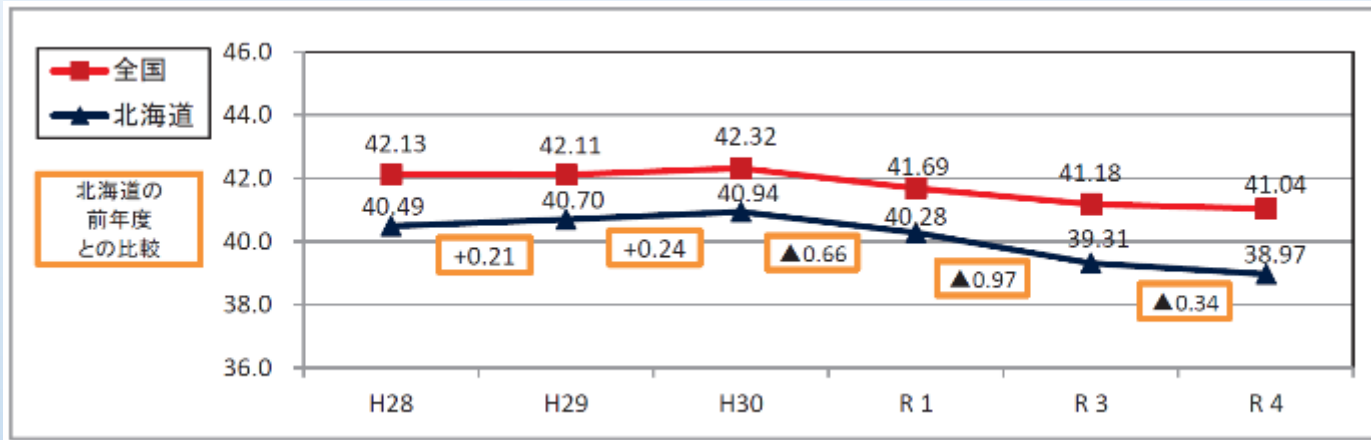


## 小学校女子 体力合計点の推移

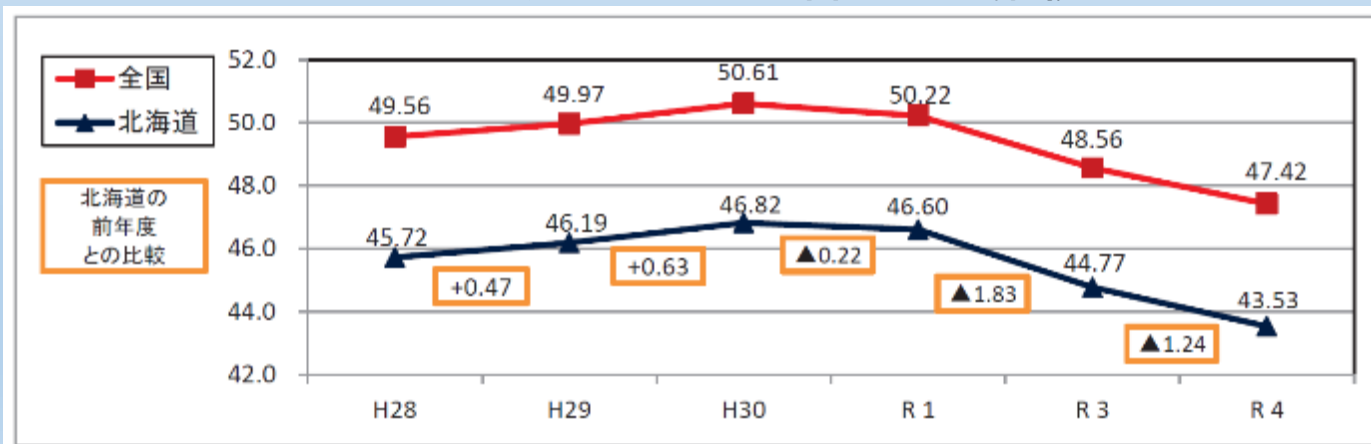


# 北海道の体力の現状

## 中学校男子 体力合計点の推移



## 中学校女子 体力合計点の推移



# 北海道の体力の現状

## 【本道の現状】

- 体育の授業が楽しいと感じている児童生徒の割合が全国平均よりも高い。
- 小・中学校ともに、
  - ・ 前年度の調査結果を踏まえて授業等を工夫・改善
  - ・ 授業の冒頭に目標を提示
  - ・ 授業の最後に学習内容の振り返り
  - ・ 助け合ったり、役割を果たしたり、話し合ったりする活動を設定していると回答している学校の割合が全国平均よりも高い。

## 【本道の課題】

- 体育の授業に進んで取り組んでいる児童生徒の割合が全国平均よりも低い。
- 授業の中で、
  - ・ 目標(ねらい・めあて)を意識した学習
  - ・ 自分に合った練習方法を選択
  - ・ 友達と助け合ったり、教え合ったりする活動により、「できたり、分かたり」することがあると実感している児童生徒の割合が全国平均よりも低い。

## これからの授業改善の方向性

### 児童生徒が「できる」、「わかる」を一層実感することができる授業の実現に向けて

- ・ 体力向上プラン等による現状把握及び授業改善の方向性の共有
- ・ 授業の中でICT機器を効果的に活用するなどして、自己の課題に応じて主体的に練習に取り組んだり、友達と関わりながら課題を解決したりする機会の意図的・計画的な設定